

平成17～21年度石油製品需要見通し 【液化石油ガス】

平成17年3月22日
石油製品需要想定検討会
液化石油ガスWG

平成17～21年度石油製品需要見通し(液化石油ガス)

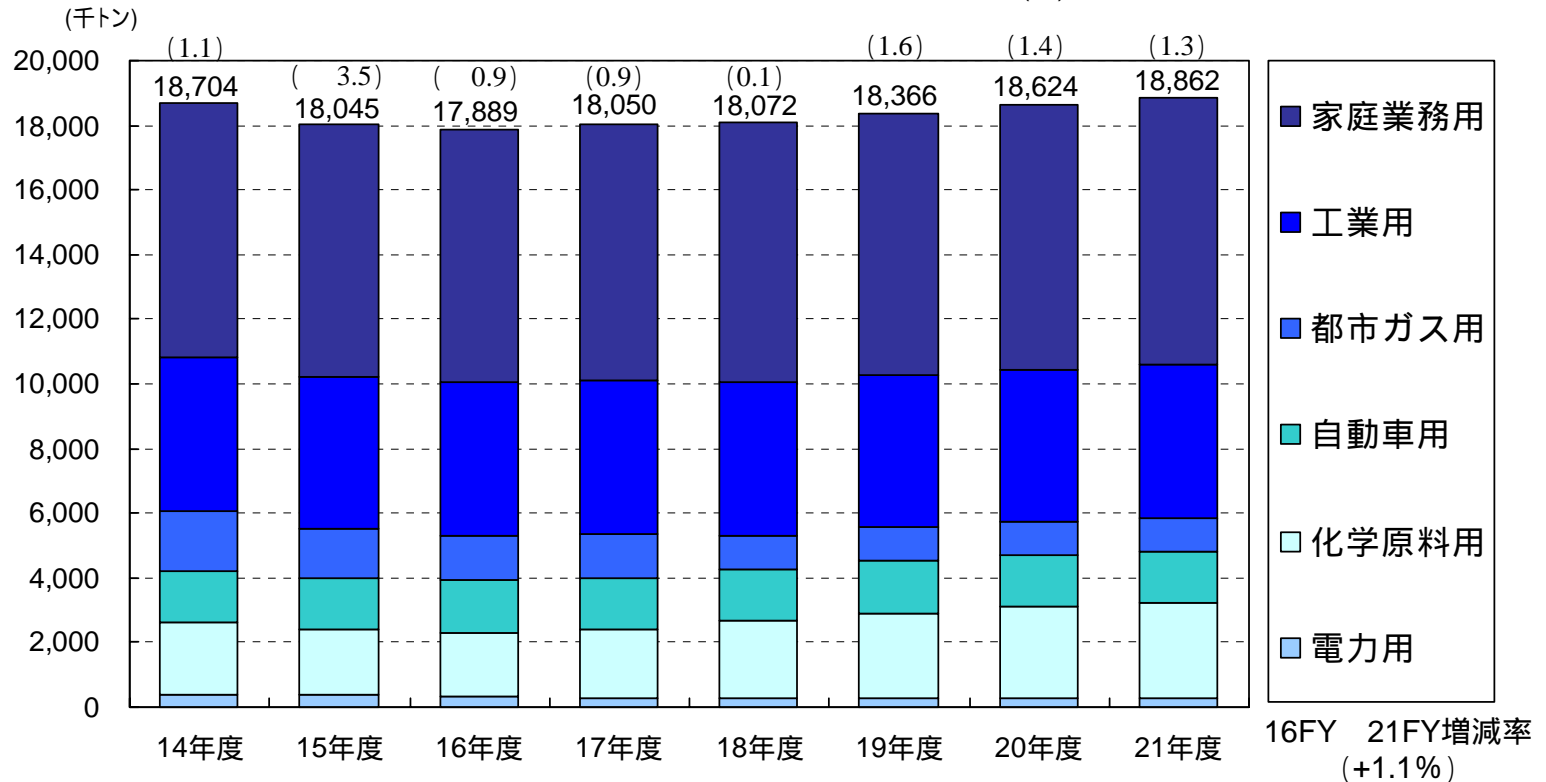
	実績	実績 見込み	見通し					年度平均 伸び率 (16 21)
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
家庭業務用	7,802 1.2	7,842 0.5	7,958 1.5	8,005 0.6	8,068 0.8	8,168 1.2	8,257 1.1	1.0
工業用	4,740 0.4	4,761 0.4	4,748 0.3	4,742 0.1	4,739 0.1	4,739 0.0	4,744 0.1	0.1
都市ガス用	1,492 18.3	1,375 7.8	1,340 2.5	1,055 21.3	1,038 1.6	1,034 0.4	1,044 1.0	5.4
自動車用	1,628 1.1	1,621 0.4	1,612 0.6	1,604 0.5	1,598 0.4	1,593 0.3	1,589 0.3	0.4
化学原料用	1,981 11.3	1,986 0.3	2,092 5.3	2,366 13.1	2,623 10.9	2,790 6.4	2,928 4.9	8.1
電力用	402 6.6	304 24.4	300 1.3	300 0.0	300 0.0	300 0.0	300 0.0	0.3
需要合計	18,045 3.5	17,889 0.9	18,050 0.9	18,072 0.1	18,366 1.6	18,624 1.4	18,862 1.3	1.1

(注1) 上段の数字は液化石油ガス内需量、単位:千トン

(注2) 下段の数字は前年度比(%)

平成17～21年度液化石油ガス需要見通し(総括)

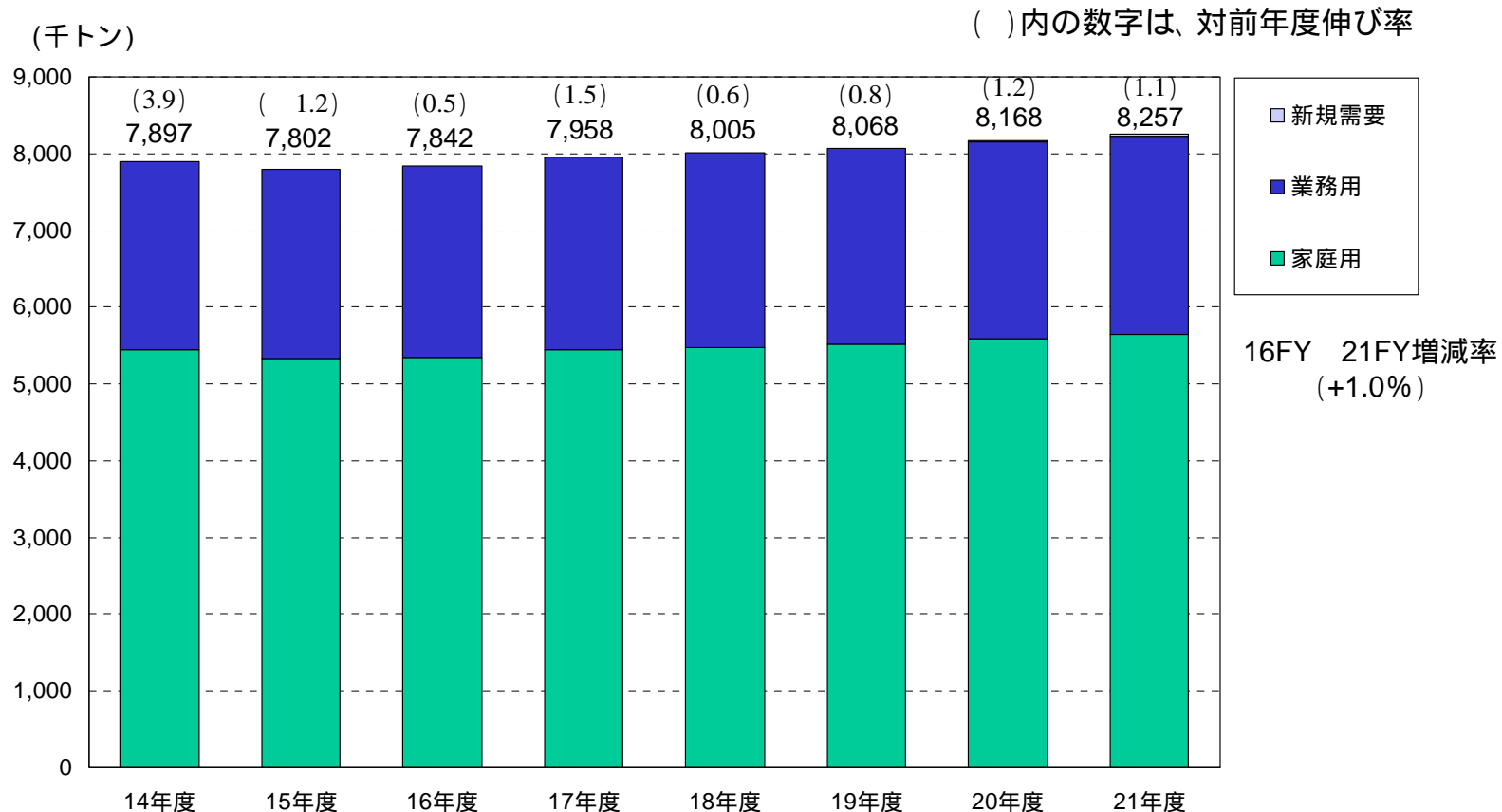
()内の数字は、対前年度伸び率



平成17年度は、LPガス器具普及の進展等による家庭業務用の増加、原料多様化政策による化学原料用の増加により、前年度比+0.9%と増加し18,050千トンとなる見込み。平成18年度以降も、家庭業務用、化学原料用の増加等により、平成16～21年度の年平均伸び率で+1.1%と堅調に増加し、平成21年度は18,862千トンとなる見込み。

平成16年度については「実績見込み」であり、平成17～21年度については「見込み」である。

家庭・業務用 LPガス世帯、器具普及率、GHP普及台数等により想定

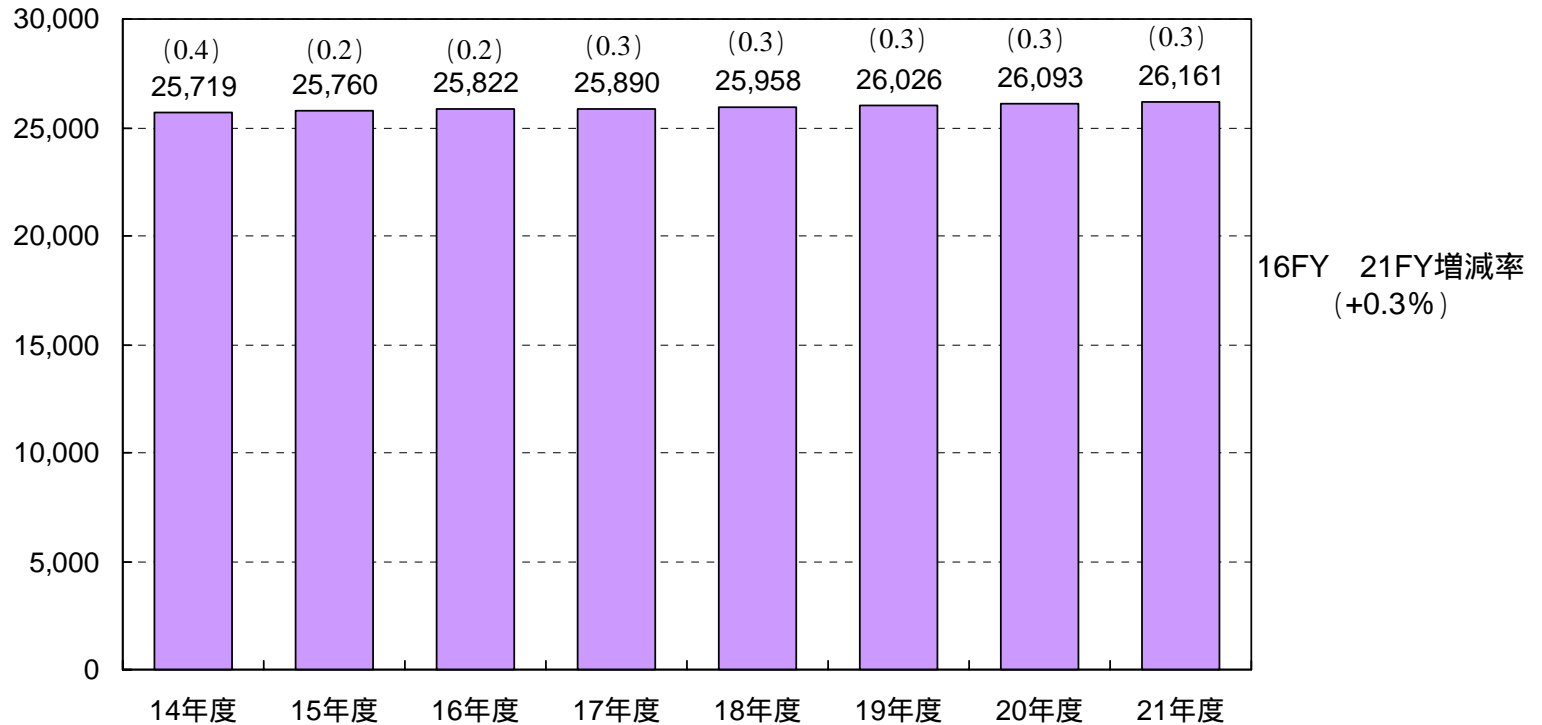


家庭業務用は、家庭用を中心に増加すると見込まれ、平成17年度は前年度比 + 1.5%と増加し7,958千トンとなる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 + 1.0%で増加し、平成21年度は8,257千トンとなる見込み。

LPガス世帯 国勢調査等により想定

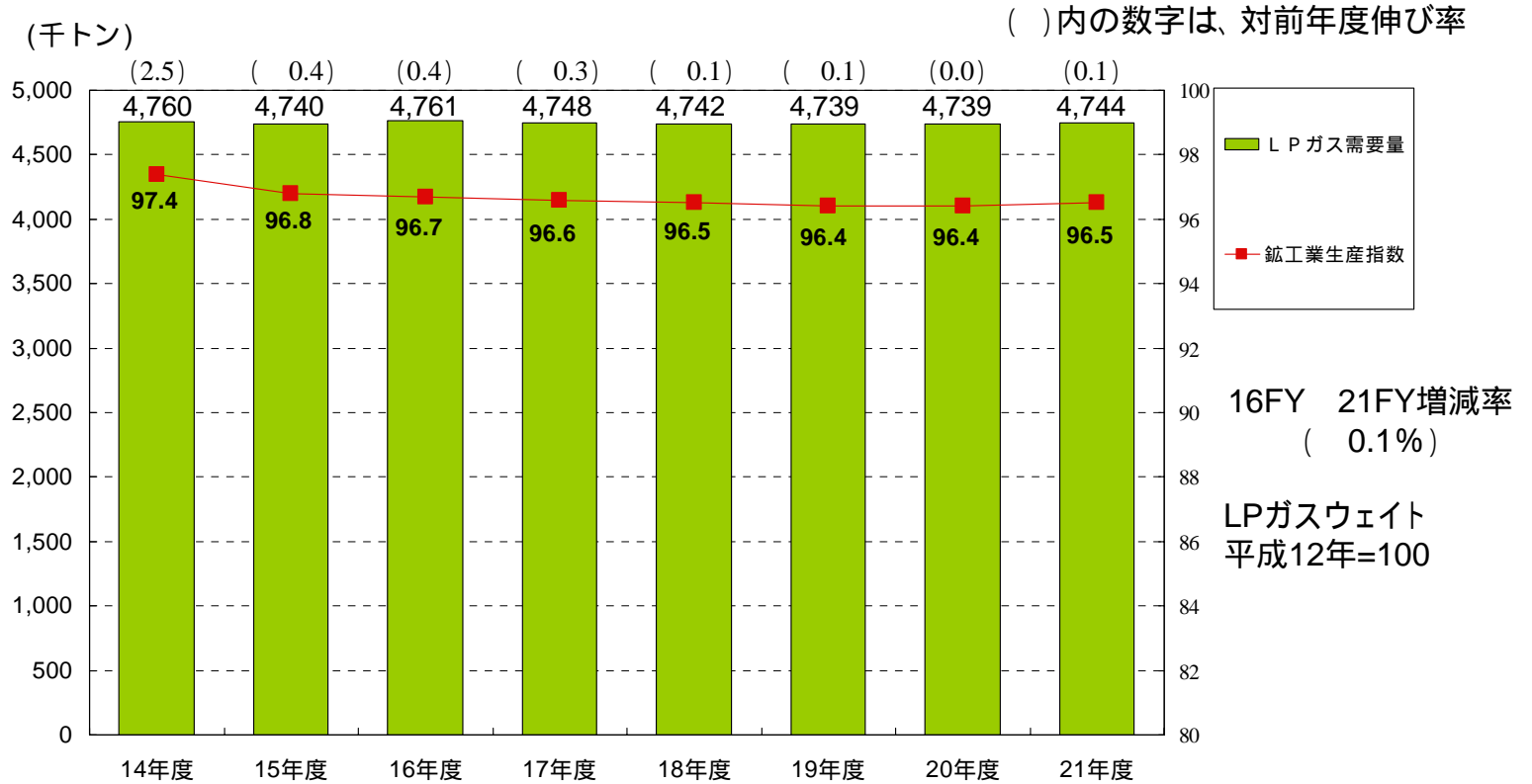
(千世帯)

()内の数字は、対前年度伸び率



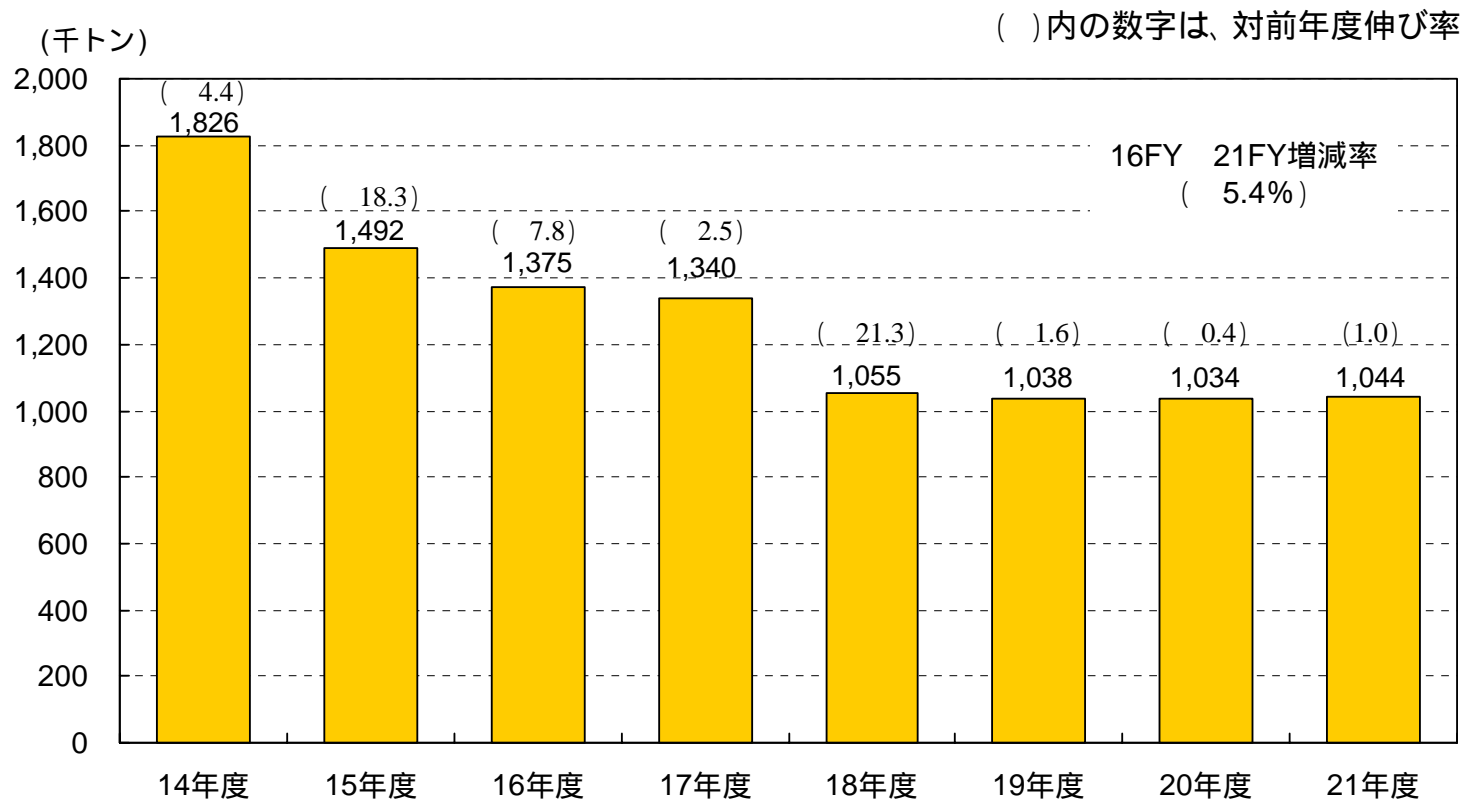
LPガス世帯は、平成17年度は前年度比 + 0.3%と増加し25,890千世帯となる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 + 0.3%で増加し、平成21年度は26,161千世帯となる見込み。

工業用 鉍工業生産指数等により想定



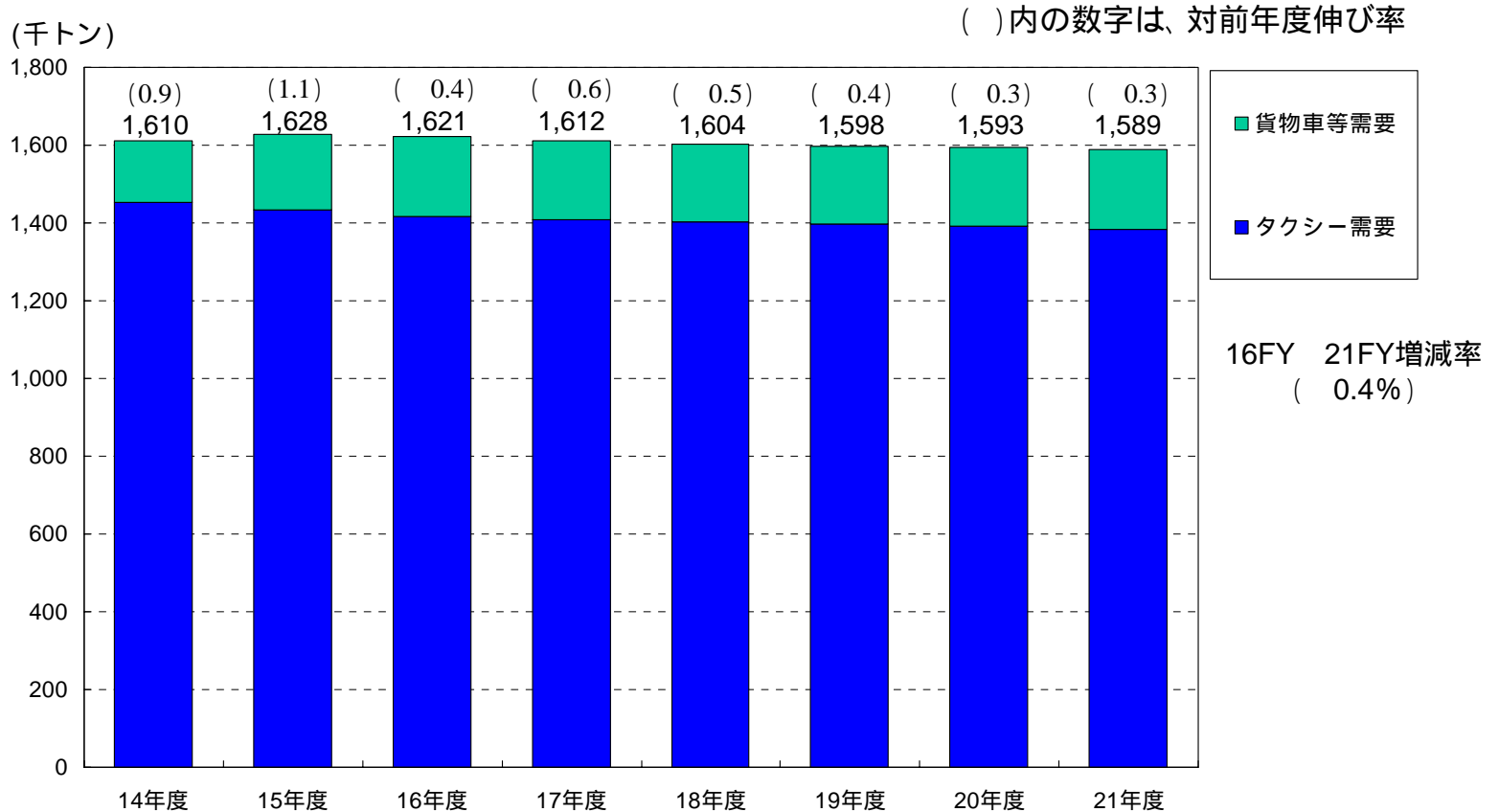
平成17年度は、前年度比 0.3%と減少し4,748千トンとなる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 0.1%で減少し、平成21年度は4,744千トンとなる見込み。

都市ガス用 都市ガス販売量、原料構成等により想定



平成17年度は、前年度比 2.5%と減少し1,340千トンとなる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 5.4%で減少し、平成21年度は1,044千トンとなる見込み。

自動車用 LPガス自動車台数、原単位等により想定

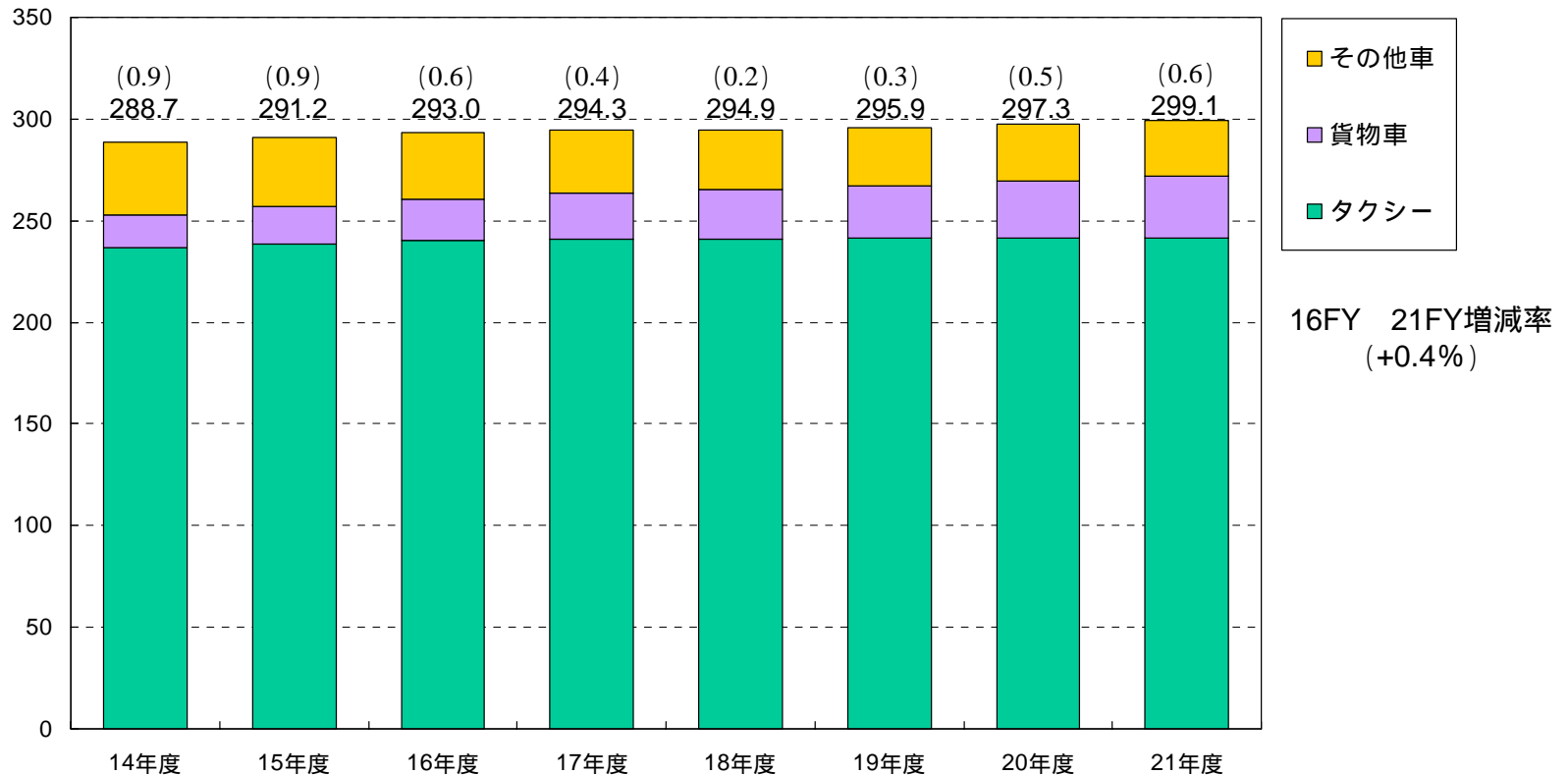


平成17年度は、対前年度比 0.6%と減少し1,612千トンとなる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 0.4%で減少し、平成21年度は1,589千トンとなる見込み。

LPガス自動車台数 自動車保有車数等により想定

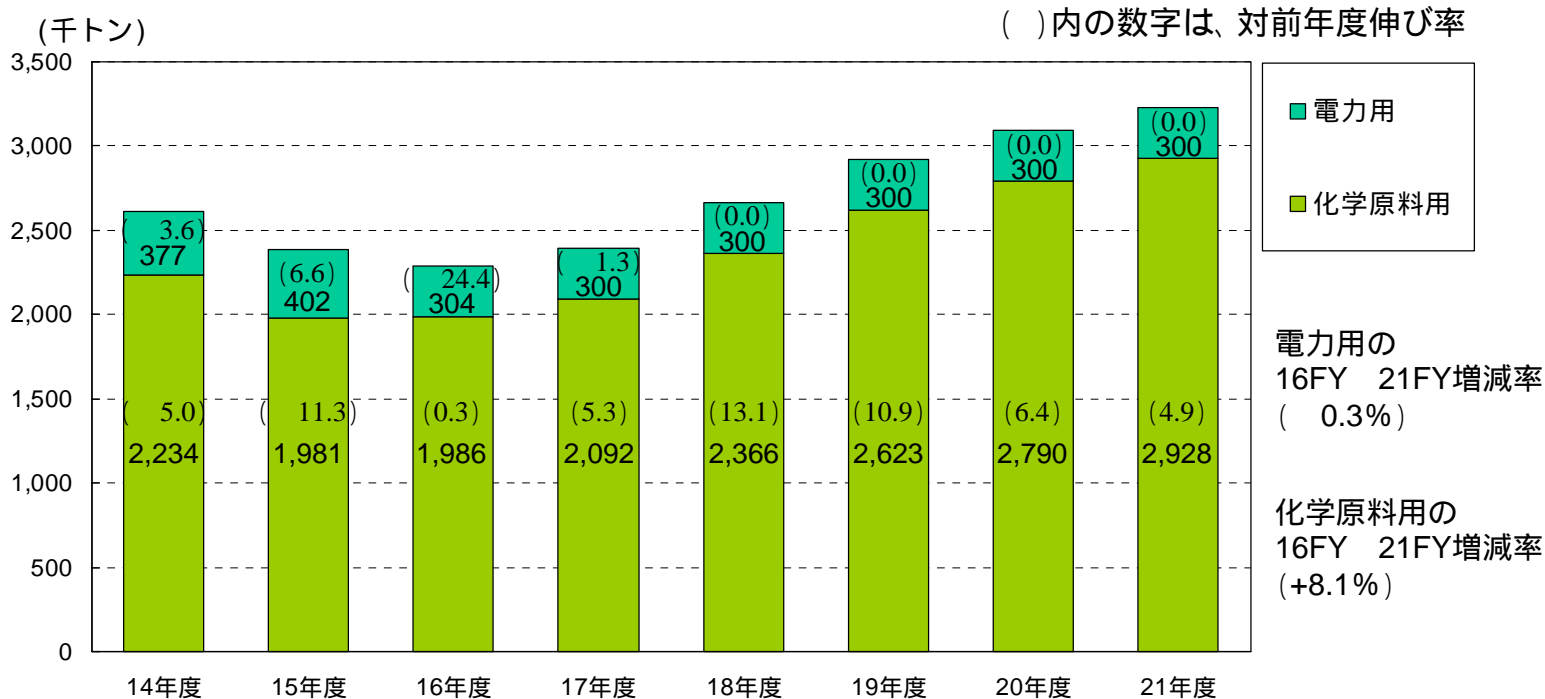
(千台)

()内の数字は、対前年度伸び率



平成17年度は、対前年度比 +0.4%と増加し294.3千台となる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 +0.4%で増加し、平成21年度は299.1千台となる見込み。

化学原料・電力用



【化学原料用】

平成17年度は、対前年度比 +5.3%と増加し2,092千トンとなる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 +8.1%で増加し、平成21年度は2,928千トンとなる見込み。

【電力用】

平成17年度は、対前年度比 1.3%と減少し300千トンとなる見込み。平成18年度以降は、平成16～21年度の年平均伸び率 0.3%で減少し、平成21年度は300千トンとなる見込み。

平成17～21年度石油製品需要見通し(液化石油ガス)の概要

1. 液化石油ガス需要

平成17年度

- ・ 家庭業務用は、LPガス世帯数の微増、LPガス器具普及の進展等により需要の増加、化学原料用は石化会社における原燃料多様化により需要の増加が見込まれる。
- ・ 一方、都市ガス用は、中小都市ガス会社における熱量転換により需要の減少が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比+0.9%の18,050千トンと増加が見込まれる。

平成18年度～21年度

- ・ 平成18年度以降も家庭業務用及び化学原料用は引き続き堅調に推移することが見込まれる。
- ・ 自動車用は、タクシー台数の横ばい傾向、宅配業者等での貨物車の増加の継続は見込まれるものの、自家用車が減少で推移し、更に、エンジン性能向上等による原単位減少が着実に進むことから需要減少が見込まれる。
- ・ 都市ガス用は、中小都市ガス会社の熱量転換、大手都市ガス会社の増熱用需要の減少により需要は減少するが、平成20年度で中小都市ガス会社の熱量転換もほぼ終了することから、その後は都市ガス販売量の増加に伴い、需要は増加に転ずることが見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から21年度までの5年間の平均伸び率は+1.1%と堅調な伸びとなり、平成21年度の総需要は18,862千トンと増加が見込まれる。

2. 部門別需要状況

家庭業務用

平成17年度

- ・ LPガス世帯数の増加、主要器具の普及率の上昇等により、需要の増加が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比 + 1.5%の7,985千トンと増加が見込まれる。

平成18～21年度

- ・ 家庭用については、引き続きLPガス世帯数の微増、更に、家庭用燃料電池、ガスエンジン給湯器、ガス給湯暖房熱源器等の新規需要器具の普及に伴い、1世帯当たりの消費原単位の増加が見込まれるため、需要は堅調に推移すると見込まれる。
- ・ 業務用については、GHPの熱効率向上による消費原単位の減少や買い換えによる普及の鈍化はあるものの、燃料電池の新規需要も見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から21年度までの5年間の平均伸び率は + 1.0%となり、平成21年度の需要は 8,257千トンと増加が見込まれる。

工業用

平成17年度

- ・ 他燃料への燃料転換等により、需要は減少すると見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比 0.3%の4,748千トンと減少が見込まれる。

平成18～21年度

- ・ 環境対応エネルギーという優位性はあるものの、省エネ等による燃焼器具の消費原単位の減少、生産活動の横ばい傾向から、需要は横ばい傾向で推移するものと見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から21年度までの5年間の平均伸び率は 0.1%となり、平成21年度の需要は4,744千トンと減少が見込まれる。

都市ガス用

平成17年度

- ・ 都市ガス販売量の増加は予想されるものの、中小都市ガス会社の熱量転換により需要減少が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比 2.5%の1,340千トンと減少が見込まれる。

平成18～21年度

- ・ 引き続き工業用を中心に都市ガス販売量は増加は予測されるものの、中小都市ガス会社の熱量転換、大手都市ガス会社の増熱用需要の減少により需要は減少するが、平成20年度で中小都市ガス会社の熱量転換もほぼ終了することから、その後は都市ガス販売量の増加に伴い、需要は増加に転ずることが見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から平成21年度までの5年間の平均伸び率は 5.4%となり、平成21年度の需要は1,044千トンと減少が見込まれる。

自動車用

平成17年度

- ・ タクシー台数の微増、環境問題に対応するため貨物車の増加が見込まれるものの、自家用車の減少、エンジンの性能向上による消費原単位の減少が着実に進むことから、需要は減少が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比 0.6%の1,612千トンと減少が見込まれる。

平成18～21年度

- ・ タクシー台数の横ばい傾向、宅配業者等での貨物車の増加の継続は見込まれるものの、自家用車が減少で推移し、一方では、エンジン性能向上等による原単位減少が着実に進むことから、需要減少が見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から平成21年度までの5年間の平均伸び率は 0.4%となり、平成21年度の需要は1,589千トンと減少が見込まれる。

化学原料用

平成17年度

- ・ 石油化学業界のエチレン用途における原燃料多様化による需要の増加が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比 + 5.3%の2,092千トンと増加が見込まれる。

平成18～21年度

- ・ 平成18年度以降においても、エチレン用途における原燃料多様化の進展による需要の増加が見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から平成21年度までの5年間の平均伸び率は + 8.1%となり、平成21年度の需要は2,928千トンと増加が見込まれる。

電力用

平成17年度

- ・ LPガスを消費している電力会社の利用計画に基づき想定。
- ・ これらにより、対前年度比 - 1.3%の300千トンと減少が見込まれる。

平成18～21年度

- ・ LPガスを使用する火力発電所の新規立地は計画されておらず、LPガスを消費している電力会社の利用計画に基づき、一定数量で推移すると見込まれる。
- ・ これらにより、平成16年度から平成21年度までの5年間の平均伸び率は - 0.3%となり、平成21年度の需要は300千トンと減少が見込まれる。